

# 川島町の財務状況把握の結果概要

## 基本的考え方

- 財政融資資金の貸し手として償還確実性を確認する観点から、平成17年度より、地方公共団体の決算統計を利用して作成する行政キャッシュフロー計算書に基づき、ストック面を重視した4つの財務指標を算出し、財務状況把握を実施。
- 平成21年度実施分より、ヒアリングを実施したすべての地方公共団体に対し、財務状況把握の結果を分かりやすく示す「診断表」を交付し、財務の健全化に向けた貸し手としてのアドバイス(情報提供)を実施。

## 診断表の概要

平成29年度地方財政状況調査表等を基に行政キャッシュフロー計算書を作成し、財務上の問題点を分析した結果の概要は以下のとおり。

### 1. 現状

#### ○ 債務償還能力について

実質債務月収倍率が低いことから債務の水準は債務高水準の状況になく、行政経常収支率が高いことから償還原資の獲得状況において収支低水準の状況にない。  
よって、債務償還能力について留意すべき状況にはないと考えられる。

#### ○ 資金繰り状況について

積立金等月収倍が高いことから資金繰り余力に問題なく、行政経常収支率が高いことから経常的な資金繰りの余裕度において収支低水準の状況にない。  
よって、資金繰り状況について留意すべき状況にはないと考えられる。

財務指標及び財務上の問題点

区 分	平成29年度	計画最終年度(令和3)	単独基準	複合基準
債務償還可能年数	8.0年	-		15年
実質債務月収倍率	9.7月	-	24月	18月
積立金等月収倍率	3.5月	-	1月	3月
行政経常収支率	10.0%	-	0%	10%
債務系統	○	-		
積立系統	○	-		
収支系統	○	-		

(平成29年度)

普通会計地方債残高	6,524百万円
うち財政融資資金	4,618百万円

### 2. 今後の見通し

4指標値(債務償還可能年数、実質債務月収倍率、積立金等月収倍率、行政経常収支率)の見通しを判断できないことから、ヒアリングにより下記の内容を確認した。

- ・ 地方債現在高及び積立金等残高はともに減少するものの、地方債現在高の減少幅が積立金等残高の減少幅を上回ることから、実質債務は減少する見通しである。
- ・ 行政経常収入及び行政経常支出はともに増加するものの、行政経常支出の増加幅が行政経常収入の増加幅を上回ることから、行政経常収支は減少する見通しである。

### 3. 総評

貴町の平成29年度の財務状況は、川島インターチェンジ周辺の産業団地による税収増などにより、債務償還能力及び資金繰り状況について、問題のない状況となっている。

一方、今後は、固定資産税等の増加により行政経常収入は増加する見通しであるものの、物件費や補助費等及び繰出金(建設費以外)等の増加により行政経常支出は増加することから、行政経常収支は減少する見通しであり、債務償還能力や資金繰り状況に影響することが想定される。

このような中、川島インターチェンジ南側地区開発事業の推進による雇用の創出や税収増のほか、川島町観光ゾーン創出事業による平成の森公園を中心とした観光振興による交流人口の拡大等を見込んでおり、これらが今後の地域の活性化に繋がることが期待される。

貴町におかれては、行政経常収支の減少が続く中、公共施設の老朽化対策に伴う財政負担の増加が見込まれることから、行政コストの削減等に取り組んでいくほか、公共施設の適正配置や長寿命化改修等を踏まえた個別施設計画を策定し、これらを中期財政計画に反映することにより、健全かつ安定的な財政運営を行っていくことが望まれる。